

蝶ちようの舞まう夢ゆめ

進藤しんどう
アヤノ

登場人物

- ・流生……25歳。大学院生（修士課程）。実家暮らし
- ・愛居……32歳。流生の姉。18歳の時に家を出た。現在は海外に住んでいる

*名前のみ登場

- ・蝶子……流生と愛居の母親
- ・正志……流生と愛居の父親
- ・幸生……愛居の娘
- ・クリストフ……愛居の夫

とある土曜日の昼下がり。

私は、いつものように家に居て、いつものように勉強していて、

勉強が息ついたから、一息つきたくて、一度居間に降りて休憩していた。

15分ほど休憩したのちに、また2階の自室へと戻る。

たんたんと階段を上る。階段が上がってすぐ手前の部屋が私に与えられた部屋である。

私にこの部屋が自室として与えられたのは14年前。

当時この部屋を使っていた姉が使わなくなったからだ。それは突然だった。

突然いなくなった姉の存在を誤魔化すかのように、私がこの部屋を使うようになった。

ここは、私の部屋。

私の部屋のはずなんだが、

流生 ……姉さん？

目の前に、姉がいる。

愛居 お、久しぶりー

少しだけ、浮いて。

流生 ……え？

愛居 いや、久しぶり。元気してた？

流生 ……うん。まあ、うん

愛居 いやいや、ずっと帰っていないと結構変わっているもんだね

流生 ……そうだね。

……え？

愛居 え？

流生 なんか、浮いてない？

愛居 ああ、これねー

なんか、浮いちちゃってんだよねー

流生 浮いちちゃってんだよね？

愛居 うん

姉は、浮いていた。少しだけ浮いて、つま先立ちのような立ち方をしていた。そのつま先も、今にも浮いてしまいそうな危うさだった。

流生 え、うそ、え、あ、え、

流生 ……死んだ？

愛居 んなわけではないでしょ。元気元気

流生 え、じゃあなんで浮いてるの？

愛居 さあ？

流生 はあ？

愛居 知らないよ、こっちが知りたいくらい

流生 ……それにしても、慣れた感じだけど

愛居 いや、ないない。めっちゃ不安定で困るんだよね

流生 え、困ってるの？

愛居 うん、フワフワしてるし

流生 ……そう

流生、愛居の様子を見て、部屋を出ていく。

愛居 え、ちよつとー

流生、すぐ戻ってくる。

その手には2リットルのペットボトル（水）。

愛居 え？

流生、ペットボトルを渡す。

愛居、戸惑いつつ受け取る。

愛居 おお、

流生 はい

愛居 え？

流生 え、足りない？

愛居 いや、

流生 まだあるから持つてくるね

愛居 いや、なんでそんなあんの

流生 非常用水

愛居 ああ……

流生、ペットボトルを取りに部屋を出ようとする。

愛居 いや、もういいから！

流生 え、

愛居 足りてる！足りてるから！ほら！

愛居、そこにあつた椅子に座る。

流生、それを見ている。

愛居 ね？

流生 ああ……

愛居 助かった、ありがとう

流生 ……うん

愛居 ほら、大丈夫だからさ、座ろ？

流生 あ、うん……

流生、座ろうとする。が、この部屋にある唯一の椅子は愛居に座られている。

流生 ……

流生、また部屋を出ていく。

愛居 え？

流生、今度は2リットルが6本入った段ボール箱を持ってくる。

愛居 え、足りてるって

流生 ああ、うん

流生、愛居の向かい側に箱を置き、その上に座る。

愛居 ああ、ね……

愛居、思わず笑う。

間

愛居 いやーほんと、久しいね。

流生 うん、そうだね

愛居 元気してた？

流生 うん、まあ。姉さんは？

愛居 いや、なにそれ？

流生 え？

愛居 その、姉さんっての。ちゃんと呼んでよ

流生 ……お姉

愛居 うん

愛居、嬉しそう。

流生 それで、姉さん

愛居 違う

流生 ……お姉。

……なんでいるの？

愛居 わかんない

流生 は？

愛居 いや、マジでわかんないのよ。

娘と一緒に寝てたはずなんだけど、起きたらここにいてさ、

流生 いや待って。ちよつと待って。

……娘？

愛居 うん？

流生 娘、ムスメ、子供いるの？

愛居 いるよ

流生 てか、結婚してたの？

愛居 うん、結構前に

流生 聞いてない

愛居 うん、言っていない

……はー、そう

愛居 うん

流生 (一瞬考えて) え、それ母さんたち知ってるの？

愛居 知らないよ、言っていないもん

流生 なんて、

愛居 取り返しつかなくなってから教えようかと思って

流生 え、それ。……私に言ってよかったの

愛居 別に、話したりしないでしょ？

流生 まあ、

愛居 あんたにはもつと早く言おうと思ってたんだけどね、タイミングなくって

流生 帰ってないからね

愛居 連絡先知らないし

流生 そりゃ、ねえ、お姉が出て行った時、私まだ小学生だったからね

愛居 そうだっけか

流生 私の中のねえ、お姉はまだ高校の制服だよ

愛居 そっか、なら私の中のアんたはまだランドセルだ

流生 ……そう

愛居 ね、今何歳？

流生 25

愛居 はは、年取ったね

流生 ねえ、お姉、は？

愛居 32

流生 お互い様じゃん

愛居 ま、そうか

沈黙

愛居 おめでとう

流生 祝ってもらっても……

愛居 はは、そうだなー

沈黙

流生 ねえ、お姉、今どこいるの

愛居 ん？イギリス

流生 イギリス……？

愛居 うそ、知らない？英国英国

流生 いや、それは知ってる

愛居 あ、そう

流生 え、国籍とか、変わってないよね

愛居 そーね、まだ

流生 まだ

愛居 うん

流生 そう

間

流生 え、なんでイギリス？

愛居 なんとなく

流生 なんとなく……

愛居 最初はアメリカにいたんだけどさ、

なんかノラなくて、だからイギリス。

流生 だからが、全然だからじゃないけど

愛居 私の中ではだからだよ

流生 ……そうですか

沈黙

流生 ねえ、お姉さ、

愛居 うん？

流生 なんて、家出ちゃったの？

愛居 ……

愛居、いたずらっこのように、

愛居 パスポート、もつたいないから
流生 ……は、

流生、思わず笑う。

流生 は、なにそれ
愛居 大事だよ？

間

愛居 あ、
流生 え、
愛居 雨だ

雨が降る。

柔らかく降る雨が二人のいる部屋を優しくたたたく。

愛居 雨が降った時の匂いってわかる？

流生 え、うん

愛居 あれつてぎ、名前あるんだって

流生 へえ

愛居 知ってる？

流生 知らない

愛居 教えてあげよっか

流生 うん
愛居 ペトリコール
流生 ペトリ、コール
愛居 うん
流生 ……？どういう意味
愛居 んーとね、「石のエッセンス」だったかな、ギリシャ語
流生 へえ。よく知ってるね
愛居 なんかで見たんだよねー、あれに名前あるんだって思ってたさ
流生 そうだね
愛居 ペトリコールってさ、なんかいいづらいよね
流生 そう？
愛居 うん、なんか、実家を思い出す
流生 ここじゃん
愛居 そうだよ

間

流生 そういえば、ねえ、お姉が出て行った日もペトリコール？してたよね
愛居 そうだっけ
流生 そうだよ
愛居 あー、確かに卒業式、天気雨だった気がする
流生 卒業式だったの？
愛居 そうだよ、覚えてない？
流生 ……覚えてない
愛居 そう

沈黙

雨が部屋を優しくたたいている。

愛居 あんたさ、今なにしてんの？

流生 ……学生、てか、院生

愛居 え、ドクター？

流生 いや、違うけど、一浪してるから

愛居 えー。よく許したね

流生 許したってか、そこしか許されてないから、大学

愛居 あー、そうね。

流生 まあ、でももうすぐ卒業するよ

愛居 家出れんの？

流生 いや、まだ

愛居 そっか

流生 ……聞かないの？

愛居 え、別に

流生 ……

愛居 聞いてほしいの？

流生 いや、全然

愛居 じゃあいいよ

流生 うん

愛居 私はね、結婚して子供がいるよ

流生 それ、ほんとびつくりなんだけど

愛居 子供の名前聞きたい？

流生 うん

愛居 幸生

流生 ユキ

愛居 そ、幸せに生きるで幸生。あんたの名前からきてるんだよ
流生 え、

愛居 流れに恵まれて生きますように、より、わかりやすいように

流生 ……流されて生きるじゃなくて？

愛居 え、なにそれ。そんなこと思ってたの？

流生 だって、そうじゃん

愛居 違う違う。生きてく流れに揉まれても恵まれたもので、遅しく生きますように
って、意味だよ

流生 よく知ってるね

愛居 ぜーんぶ気に入らなかつたからね、名前の漢字に意味詰めすぎじゃん？

てか、言っちゃえばね、あんたの方が旅人向きなんだよ。流れながら生きるんだから

流生 ……ねえ、お姉は？

愛居 ……愛される場所にずっと居られますように

流生 ……うちじゃ愛されなかつた？

愛居 そんなことないよ、今ならわかる。

けどさ、ちよつと足りなかつたよね、こつちにまで伝わってなかつた

流生 ……

愛居 ま、今は全然気にしてないよ、忘れてもないけど、

誰しも最初は間違うよね、わかんない事ばかりだっただろうしさ、

それに、「愛」みたいに一言で片付くものほど複雑だしさ

流生 ……相変わらず哲学的だよ

愛居 誰かさんたちのおかげでね

流生 そう

愛居 ま、気にしてないとか言ってもさ、海外に逃げてもさ

こうやって戻ってきちゃうんだから、結局私はこの家に執着してるんだよね

流生 うそだよ

愛居 嘘なものか、うそならわざわざ浮きに來ないよ

流生 ……

沈黙

愛居、ふと流生を見る。
流生、うつむいている。

愛居 え、なに

流生 ……いたい

愛居 なに、どうした

流生 多分、ゴミかまつげ

愛居 あら、

流生 うん

愛居 あーあー、擦っちゃダメだつて

愛居、流生にハンカチを渡す。

流生、ハンカチをもらい涙を拭う。

ハンカチからは、ミルクの匂いがした。

流生、静かに、

流生 母親みたい

愛居、流生の顔をしっかりと見る。

愛居 ママだからね

流生 ……うん

愛居 止まないじゃん、大丈夫？

流生 ……うん

愛居 ほんとにゴミ？

流生 ……うん

愛居 私のことでしょ？

流生 ……なんで？

愛居 なんとなく

流生 なにそれ

流生、愛居の顔をしっかりと見る。

流生 ほんと、適当

沈黙

愛居 取れた？

流生 多分

愛居 そ、よかった。あんま目触ったらダメだよ

流生 うん

愛居 てか、雨やまないなー

流生 今日は、多分ここからずっと雨だよ

愛居 そうなの？

流生 うん

愛居 そっか

流生 最近、あまり降ってなかったんだけどね

愛居 え、今日だけ？

流生 うん。ねえ、お姉が帰ってきたからじゃない？

愛居 えー、なにそれ

流生 だって、姉、お姉、雨女じゃん

愛居 そうだっけ

流生 そうだよ、運動会とか、姉ねえさ、お姉が来ると絶対雨降ってた

愛居 マジ？

流生 マジ

愛居 それは知らなかった

流生 気づかないの？

愛居 あんまし天気は気にしてないかなー

雨とか降っても傘ささないし

流生 そっか

一呼吸ほどの間

流生 そういえば、イギリスとか、そっちの人って傘ささないんだっけ

愛居 うん

流生 なんで？

愛居 さあ、めんどくさいんじゃない？

流生 そんなもん？

愛居 そんなもんでしょ

間

愛居 ……幸生、大丈夫かな

流生 ……今、あつちは何時？

愛居 えーっつと、4時とか？

愛居 まあ、まだ寝てるだろうし、クリスマスもいるけどさ

流生 クリス？

愛居 夫。

流生 ああ。なんか、普通だね

愛居 なに言ってるの、普通が一番

てか、うちの名前もね、ローマ字になったら漢字の意味なんか消えるんだから。

私なんて、AIだよ、人工知能だよ？意味真逆じゃん？

流生 まあ、ねえ、お姉の漢字は置字みたいなもんだしね

愛居 そうよ、これでアイなんてよく読ませるわ

流生 でもさ、娘には漢字つけたんだね

愛居 ……まあ、うん。最初はつけないつもりだったんだけどねえ、

願いを込めるには最適だと思うからさ、漢字は

流生 大事なんだね、娘

愛居 そんなじゃない、持ち合わせてる言葉じゃ表現できないよ。

……「愛」だからね

流生 アイ、ね

愛居、少し寂しそうに手元を見つめている。

流生、その様子を見ている。

雨が強くなっていく。

流生、ぽつりぽつりと話します。

流生 姉さん、久しぶり。突然部屋にいたのはびっくりした。

残念だけど、元気そうだね。

どこに逃げたのかは知らなかったけど、イギリスだったんだ。修学旅行で行ったもんね。

まあどうでもいいよ別に。そんなに遠いところまで逃げて手に入れた自由はどう？
気分がいいだろうね、自分のことだけ考えて逃げたんだしさ。

結婚もびつくりだけど、子供までいるなんてね、

ちゃんと育てることなんてできる？きつと無理だよ。

他人の人生を平気で歪ませる人間には。

あなたが逃げたせいで、あの人たちの矛先は全部私に向かった。

それがどんな地獄か、あなたはよく知ってるはずでしょ。

あなたのこと、ずっと嫌い、勝手に、身勝手に、自分勝手に。

全部私に押し付けやがって、私を捻じ曲げやがって、

わたしを、置いていきやがって

ああ、やっぱり大嫌い。おねえ、なんて気色悪い呼び方も何もかも

流生、愛居を見据えて、吐き捨てる。

流生
だいつきらい

流生の言葉は、雨に流される。

愛居
うん？

愛居には、聞こえていない。

流生
……ううん

雨は、弱くなっていた。

沈黙

愛居 それにしても、なーんでこのタイミングだったんだろ
流生 ……わかんない？

愛居 え、わかるの？

流生 ……うん、まあ、うん

愛居 えー？

愛居、少し考えて、思い当たる。

愛居 あ、誕生日か。

蝶子の

流生 母さんね、それくらい呼んであげなよ

愛居 それは嫌。

あー、でもそう、そっかー。

……何歳だっけ

流生 60

愛居 ……てことは、正志も65か

流生 父さんね

愛居 そっか

問

愛居 年取ったね

流生 みんなね

愛居 そうね

沈黙

愛居 よっし、帰るか

流生 え、

愛居 まー、次は？みんな来てあげてもいいかな？

……いつになるかは、わかんないけど

流生 え、帰れるの？

愛居 うーん、多分？

流生 多分で……

愛居 ま、なんとかなるよ。なんとかね

流生 ……そう

愛居 流生

流生 え、

愛居 ごめんね、ちゃんと見てなくて

愛居、流生をしっかりと見ている。

流生 ……いいよ

愛居 うん

愛居、ペットボトルを椅子の上に置く。

少し危なっかしいが、浮くことなく立っている。

愛居 じゃ、またね

流生 ……うん

愛居、部屋から出ていく。

流生
……

流生、黙ってペットボトルを見つめている。

姉は、颯爽と部屋から出ていった。

部屋には、私とハンカチと、ペットボトルが残った。
姉を繋ぎとめていた重しが光の反射で光っている。

また、一人となった、部屋に残って私は、

私は。

(終)

○本戯曲に関して

・本編の内容についてのご質問やご相談は、作者までお問い合わせいただけますと幸いです。
無断での改訂などはご遠慮ください。

・本編の舞台となる流生の部屋について、構造など指定は特にございませぬ。